

### ③ 広田地区ってこんなまちです

#### (広田地区の歴史)

広田地区は、崎岡町、浦川内町、重尾町、広田町、中原町、広田1丁目、広田2丁目、広田3丁目、広田4丁目からなっています。

広田という地名の詳しい由来はわかりませんが、戦国時代の終わり頃には、この地を領土に持つ松浦鎮信が築いた「広田城」に、大村純忠らの連合軍が攻め込んだ争いが郷土史に残っています。

この地域は、古くから肥前国彼杵郡に属していましたが、明治22年に東彼杵郡広田村になりました。その後、昭和2年に早岐と合併し早岐村となった後、昭和17年に佐世保市に編入し、現在に至っています。

広田地区は佐世保市の東南部に位置し、北は早岐地区、西は江上地区、南は宮地区、東は三川内地区と波佐見町の一部に隣接しており、北部は小森川、西部は早岐水道、南部と東部は一連の山系に囲まれています。

かつては、田植えの時期になると白サギが群れ遊び、秋には黄金色の稲穂が揺らぎ、トンボの群れが飛び交う純農村地区でした。

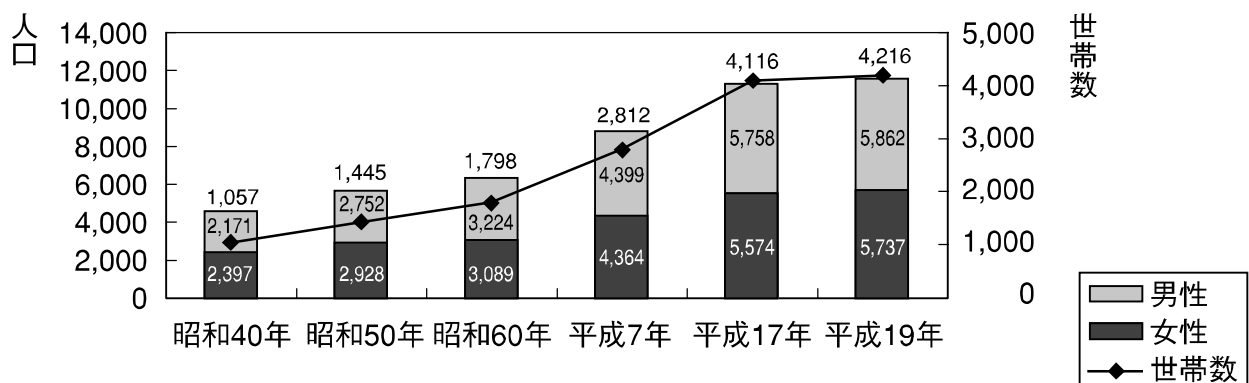
時代が進み、広田地区には開発の波が押し寄せます。昭和53年4月から、東部地区区画整理事業開発が着工されました。この開発により、金田川・浦川内川の大改修、国道から重尾町、ニッ岳を経て波佐見町へ抜ける幹線道路の建設が行われ、現在の広田3丁目・4丁目の整然とした街並みが姿を現しました。

昭和59年、佐世保東商業高校（現、佐世保東翔高校）が陣の内町から重尾町に移転、平成3年には、早岐中学校から分離して広田中学校が開校しました。平成8年には、広田地区公民館・広田児童センターが開設し、さらに、平成12年には長崎国際大学が開学するなど、教育施設、行政施設が続々と整備されました。

こうして昔は農村地帯だった広田地区は、市内で最も発展著しい地区になっています。



#### (広田地区の人口推移) ※いずれも10月1日時点の統計資料



## 〈 広田地区 “わがまち自慢” 〉

広田地区には“自慢”がいっぱい! その一部を紹介します。

### ◎浦川内子ども浮立◎

その歴史は古く、道具のひとつである鉦には、「嘉永」「文久」等の年号が刻まれていたそうです。しかし、その鉦が太平洋戦争のために供出されると、浮立の歴史も一時途絶えていました。戦後ようやく平和が戻ったことで、復活を望む声が高まり、権常寺に一組残されていた鉦を借りて復興しました。その後、専用の鉦一式をつくり、平戸城から譲り受けたという由緒ある大太鼓も張り替えて、昭和57年4月に「浮立保存会・子ども浮立」が結成されました。

当時は子どもも多く、笛に太鼓に鉦、もらし(しめ太鼓)、さらに茶屋踊りと、競って稽古に励みました。

毎年、氏神様の奉納に勇壮華麗な「庭浮立」、福を呼び込む「道行き浮立」と一糸乱れぬ見事な演技に、観客も大拍手。佐世保市制100周年記念事業など多くのイベントにも出演してきました。

町民の和、団結、子どもの健全育成に最もふさわしいこの浮立を、絶やさず伝承に努めようと保存会一同で頑張っています。



### ◎なきびす様◎

上小森橋から東へ300メートル行くと、右側にレンガ造りのお堂があり、中には前かけをした神石が2体並んで祀られています。

昔、平戸松浦藩と大村藩の戦いで広田城が攻められた際、城主の奥方が赤ん坊を連れて竹やぶに潜んでいたところ、突然赤ん坊が泣き出し、敵方に見つかった母子は殺されてしまいました。それを哀れに思った村人が、この地に墓を建てて母子の霊を弔いました。

それ以来、ここにお願いと、子どもの夜泣きが治るという言い伝えがあり、大勢の人が訪れています。お願いとときは、神石に掛けてある前かけをいただいて子どもにつけ、夜泣きが治ったら新しい前かけをお供えする習わしになっています。

### ◎住吉神社◎

縁起は古く「日本書紀」の時代に遡り、社伝によれば、第12代景行天皇が日向の熊襲親征のため九州に行幸された時、速来瀬戸の航海安全のため上原の地に住吉大神を配祀され、降って、広田の地に遷座されました。

時は流れ、社名が住吉大明神から住吉宮に、さらに明治7年に住吉神社となり、その際に郷社に列されて現在に至っています。

本神社の御祭神である三柱の筒男命は、住吉三神とも称され、綿津見三神や、宗像三女神と共に三大海神で、航海安全、海上平安や寿福慶賀、農耕豊作を叶える海神として、西日本一帯で信仰されてきました。

海、山の幸に恵まれるこの地方でも、古くから住吉信仰が盛んで、本神社は、その中心的な神社として一千余年の歴史を歩んでいます。



## 4 広田地区を支える団体

### ◎自治会連合会

平成8年4月、広田地区公民館の開設に伴い、15町内自治会で発足しました（現在は13）。毎月の定例会での話し合いや様々な行事を通して、広田地区の振興に努めています。

現在、人口約11,600人、約4,200世帯で、毎年増加傾向にあります。

近年、企業・商業施設が次々と進出し、今後も地域活性化が大いに期待されます。



### ◎民生委員児童委員協議会

平成8年4月に、広田地区公民館が開設し、早岐地区民児協から分離し発足しました。

民生委員児童委員14名、主任児童委員2名の計16名で、ひとり暮らしや寝たきりの高齢者、障がい者、生活保護や低所得者、児童や母子・父子家庭など、地域住民の相談相手として、福祉の充実のために活動しています。



### ◎老人クラブ連合会

平成8年4月に発足し、平成19年現在、7つのクラブに約560名の会員がいます。

高齢者の生活を健全で豊かなものにすると共に、福祉増進に資することを目的としています。

一年を通して、様々な活動をしており、中でも秋に実施する演芸大会は、年々参加者も増加し盛大に行われています。



### ◎広田小学校PTA

平成18年より「広っ子フェスティバル」という行事を行っています。

「復活!学芸会」の意味を込め、自分たちだけではなく、地域の皆さんと喜びや楽しさを分かち合いたいと考えています。

その中で、より強い深まりと信頼を築き、地域の活性化と子ども達の成長の糧になることを信じて取り組んでいます。

今後も活動を続けていき、子ども達と一緒に成長していきたいと思ひます。



### ◎広田中学校PTA

子ども達の健全な育成の為に、保護者と学校の連携が必要不可欠です。そのため、平成19年度から「一人一役運動」を掲げ、PTA行事には、必ず一人1回は参加するようにしています。

また、食育力を信じて実施している「食べて学ぶ食育教室」は、小学校の保護者や地域の方にも参加していただき、好評を得ています。

最近では、地域と学校の関わりが希薄化しているといわれていますが、これからは、学校が地域の核となる場所となっていくことを願い、活動を続けていきたいと思ひます。

